



世界に希望を生み出そう

2023-24 国際ロータリーのテーマ  
会長 ゴードン R. マツキナリー

RI第2510地区

留萌ロータリークラブ



# 会報

2023 ▶ 2024  
WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長目標

留萌に希望を生み出そう ~CREATE HOPE in the RUMOI~

会長／武田 佳彦 幹事／西原 正幸

## プログラム

- 本日  
「地区年次大会（小樽市）」
- 次週予定  
「地区年次大会報告」

【第13回・第14回 合併号】

No. 2972 第13回 10月15日

出席報告

前例会

|        |        |
|--------|--------|
| 会員総数   | 25名    |
| 出免会員   | 5名     |
| 出免出席   | 2名     |
| 基準会員出席 | 14名    |
| 出席率    | 72.27% |

例会／毎週水曜 12:15～13:15

## 🖋️ 会長報告 .....

- 9月21日、留萌ライオンズクラブの創立64周年チャーターナイトに出席して参りました。厳かな新入会員の入会式。3名の入会で執り行われました。当クラブとしても非常に参考になる事がたくさんありました。来賓紹介にてライオンズクラブ会長 武田佳彦様と紹介された、ハプニングもございましたが、楽しい時間をを過ごさせて頂きました。
- 今週10月14日・15日は2510地区の地区大会が小樽にて開催されます。忘れる事なく、時間に遅れないようにお願いします。
- 地区は違いますが、2500地区の帯広ロータリークラブ、ローターアクトクラブ共催にて10月21日朝9時より帯広グリーンパークにある長さ400メートルの世界一長いベンチが老朽化によりサビが出ているため、9時から12時まで塗装するという事です。私もこれに参

加しようと思っております。汚れても良い服装で参加してくださいとの事でしたが、前日飲み会があり、お酒に負けなかったら参加してみようと思います。

## 📋 幹事報告 .....

- 回覧をまわしておりますが、地区大会の次第の詳細が届いております。参加される方で希望される方がおりましたら私の方までご連絡ください。ラインで対応いたします。
- 羽幌、滝川、砂川、赤平クラブより10月の例会案内と会報が届いております。

ゲスト 一般社団法人留萌青年会議所  
西埜 弘樹様  
ビジター 一般社団法人留萌青年会議所  
羽生丈一郎様

### 委員会報告 .....

#### 奉仕プロジェクト委員会

谷口 委員長

今月10月28日に地区補助金事業「フィジカルトレーニングで鍛えよう」と題して、小・中学生(小学4年生～6年生、中学生)対象の事業を開催致します。場所は留萌市スポーツセンターで、午後1時から午後3時まで行われます。当日はプロのトレーナーによるトレーニングですので、会員の皆様もぜひ参加して丈夫な体を作って頂きたいと思ひます。参加定員を100名としておりますで、皆様方からのお声がけもよろしくお願い致します。

• 本日の例会、西埜さん、羽生さん、よろしくお願い致します。 青山副会長

• 本日は卓話よろしくお願い致します。西原幹事  
• 先生、よろしくお願い致します。 桜元会計

• 私事ではございますが、弊社も創業90周年を迎える事が出来ました。ありがとうございます。 高橋親睦活動委員長

• 西埜様、羽生様、本日の卓話楽しみにしています。 谷口奉仕プロジェクト委員長

• 西埜様、羽生様、ようこそ留萌ロータリークラブへ。 関野会場監督補佐

前 回 287,300円

今 回 11,000円

累 計 298,000円

### 3分間情報 .....

#### クラブ運営委員会

櫛井 副委員長

10月は米山月間です。米山記念奨学会は外国人留学生を支援する民間最大の奨学団体です。ロータリー米山記念奨学会は、将来母国と日本との懸け橋となって国際社会で活躍する優秀な留学生を奨学することを目的としています。優秀とは「(1)学業」に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、「(2)異文化理解 (3)コミュニケーション能力」への意欲や能力に優れている点が含まれます。

ロータリー米山奨学生は、ロータリークラブを通して日本の文化、習慣などに触れ、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人となる事が期待されます。

年間の奨学生採用数は約900人、事業費は約14億4700万円(2020-21年度決算)と、国内では民間最大の国際奨学事業となっています。これまでに支援してきた奨学生数は、累計で22,875人(2022年7月現在)。その出身国は、世界129の国と地域に及びます。

### ニコニコBOX .....

- 西埜様、羽生様、本日は元気よくお話しください。 武田会長
- 西埜さん、羽生さん、ようこそ留萌クラブへ。本日の卓話楽しみにしています。よろしくお願い致します。 燕エレクト

### プログラム .....

#### 来賓卓話「新たなプロ野球チームの創造」

一般社団法人 留萌青年会議所

西埜 弘樹様

本日はお招きいただき、誠にありがとうございます。本来私自身、話すことがあまり上手ではありませんので、聞き苦しい所や分かりにくい所があるかもしれませんが、少しの間お話をさせていただきます。

今年度、留萌青年会議所は「BeyondImagination～伸び伸びと仲間とともに～」というスローガンをもとに、スポーツを中心としたまちづくりをしていきたい。その思いから我々は今運動を展開しております。

青年会議所の活動は、1月から始まり12月に終わります。すでに残り2ヶ月と少ししかないので、本年プロ野球チームを作るという目標のもと活動していましたが、プロ野球チームを作るのが想像以上に難しく、2025年度にチームを作るというスキームに変更いたしました。日本ハムファイターズや読売巨人などのNPBと言われてるリーグではなくて、地域性が高い、北海道の独立リーグ、フロンティアリーグというところにチームを作って、そこに参入しようというお話でした。ですが目的を修正させていただきまして、2025年の5月にそのリーグに参加参入できるように、今我々は運動を進めております。

細かい効果ですとか、作っていく過程のお金の話ですとか、人の流れですとか、そういうことなどをお話しできるのですが、まずは夢のような、今私たちがやっている、まるで夢のような話を皆さんにお伝えできればなと思っております。

大変遅くなりましたが、改めて自己紹介させていただきたいと思います。私、西埜弘樹と申します。1983年生まれ、本年で40歳になるので今年で青年会議所は卒業させていただきます。留萌で生まれて留萌で育ちました。本業は今、鍼灸治療院をやっています。高校卒業後に札幌の鍼灸専門学校に行きまして、3年間勉強して、日本の国家資格を取得後、中国の大学に編入して3年間中国で生活をしてきました。2007年に訪問専門の治療院始め、電話をもらったら完全予約制で僕が患者さんの家に行って仕事をしていたのですが、2014年頃錦町2丁目の旧ラルズプラザの横に治療院を構えまして、今は治療院と往診両方1人でやっているのが私の現状の生業です。

私は2010年に留萌青年会議所に入りました。その年は、留萌で第55回北海道地区大会をやっており、その時に入会いたしました。2020年に北海道の役員をやらせていただきましたが、コロナの影響で何も活動ができない中、どうやって我々の活動を発信したらいいのか…というところから、テレビ番組を1本作りました。アイディアとネタを持っていき、HBCで1時間の生放送番組を作りました。今、北海道の青年会議所の中では1本テレビ番組を作っていくのがここ近年続いております。また2021年のコロナの時には、私が第66代理事長をやらさせていただきました。その時に掲げていたスローガンは「GoBold～大胆にやろう、こけたら立ち上がろう～」でした。2年も経つとコロナ禍も僕の中では薄くなってきていて、当時で思い出にあるのが、新年交礼会の時に市内の方しかお呼びできませんでした。2年間、北海道で色々なことをやらせていただいて、たくさんの方に「留萌青年会議所はこうやって盛り上げていきますよ」「こういうことを行っていますよ」という話をしたかったのですが、なかなかそれができませんでした。それでも1年間、理事長として何とかやらせていただきました。

今、2023年北海道の副会長の方をやらせていただいております。先ほど話をしたテレビ番組の件も携わりました。9月に放送されて今年は1回幕を閉じましたが、北海道の様々な情報や活動を発信させていただいております。

さてそろそろ、野球の話をしていきたいと思います。まずその野球に話をする前に、夢の話をしたいと思います。2010年に入会して今年で14年になりますが、時間とともに大きな夢を抱くことがなくなったと最近思いました。特にコロナが流行してからは、やるのが安全だったりとか誰かに迷惑をかけないかなど、どちらかと言ったらできそうなことをやる。多分これは、北海道や日本全国で同じような感じになっていると思います。

私の肩書きは本来事務局長で、もともとは野球チームの担当では全然ないのですが、前の担当者が6月ぐらいから来れなくなってしまいました。私は6月19日で40歳になったのですが、佐藤理事長のから誕生日に「うちの会社に来てくれ、話がある」と言われて、「何をプレゼントしてくれるんだろう、嫌だな」なんて思っていたら「プロ野球チームを作ってください」って言われたんです。なんだかんだと私にバトンを渡してもらったのですが、まあ「やります」しか言えません。青年会議所は「はい」か「イエス」若しくは「喜んで」しかありません。

そこから2日間かけて、今年の委員会の活動を調べました。結果、今のままでは野球チームはできないとわかりました。そこで佐藤理事長が言っていたのが、「夢のあることをやりたい」でした。私も「いい加減に出来そうなことはやりたくないな、夢のあることに挑戦したいな」と思いました。それがJCであり、私たち若者だから。

例えば、今やってるチームに関しても、いろんな方にお話をさせていただいております。今、私たちはプロ野球チームを作りたいです。皆さんに好評なんです。多分夢みたいなのを言っているから。できそうな感じはまだ皆さんに伝わっていないでしょうし、今日の卓話でも正直、皆さんに詳細を伝えることはあえてしないようなシナリオで組んできました。

なんでしないのかと言うと、一生懸命若い羽生君とやってるんですが、夢を追いかけてい

## 第12回 10月11日(水) 天候/晴

る時ってめちゃくちゃきついんですけど、その分一個一個こう結果が出てくるとか、応援してくれる人が増えてくるのを肌で実感していくたびに、きっとできるんだろうなって。コロナになって、コロナになる前からかもしれないですね、大きなことを言わなくなった人が多くなった。できそうなことにそれっぽいことを言って置きに行く。それは私にとってすごく好きなことではない。

そうなると、このプロ野球チームを作るってことは本当に理事長が私にくれた最後のギフトになりますし、私が留萌青年会議所のメンバーとして、このマチに還元できる最後のチャンスなのかなと思っております。今回の卓話のテーマが「夢」なので覚えておいていただきたいなと思っております。

少し具体的な話をします。ただ本当にぎっくりの話です。もしプロ野球チームができれば、まず雇用が生まれます。独立リーグに参入するチームには大体22人の選手が所属します。選手はほとんどが留萌市外から来ると思います。もしかしたら本州から来るかもしれない。“高校を卒業したけれどもまだ野球やりたい”“大学を卒業したけど野球やりたい”“大学や社会人野球とかなに行かないで独立リーグに行く”というケースがあります。独立リーグというと四国が有名で、北海道はまだまだ新参者扱いされています。北海道の面白いところは独立リーグに対して雇用に力を入れてるんですよ。北海道というのは若者の雇用が難しい地域だと言われています。また四国の独立リーグのように歴史がない分、野球としての技術的なものとか四国の独立リーグだったら1%ぐらいの確率でNPB日ハムですとか、西部とかそっちのリーグに行ける人がいるらしいんですが、北海道からはまだ誰もいない。ですので、技術の向上ではなく雇用の促進に注力している。例えばチームができて選手を呼ぶと、22人の若者がこの町に入ってきます。この町に入ってきて各企業で働きながら、空いた時間に野球をする。土日には美唄、士別、石狩のチームと試合を行う。年間大体70試合ほどあります。7月に確か浜中球場での試合をやった時もありましたが、200人近く入っていたらしいです。何万人とか何千人単位は見込めないのですが、集客については無いわけ

は無い。それ以上に22人の人口が増えて、働きの手が増える。野球を辞めた後も企業に残る人は残って、そのまま留萌人となる。それがこのプロ野球チームの一番いいところかなと思っています。

そしてもう一つあります。プロ野球チームができるとコミュニティが生まれます。どんなコミュニティかというと、今留萌市長にお話してるのは“22人が来た時の住む所はどうするんだ問題”があるのですが、私の方でお話ししてるのが、大町などにある市営住宅がかなり空いているんです。その市営住宅を格安で貸してくれないかという話をしています。例えば1部屋に対し2人1部屋で入れても10部屋が埋まります。

私も仕事柄、大町に往診することがあります。昔は賑わっていたと言われていますが、買い物をするにも車がないとなかなか不便ですし、冬の除雪問題など、決していい環境ではない。何より市営住宅に住む人たちが、やはり老人の方やご高齢のご夫婦がすごく増えてきている中で、こういう若い選手が移り住んでくれて、そういう所に住んでいただけるだけで、その周辺にコミュニティが生まれます。そして、野球というツールがあるので、野球に関してもまたコミュニティが生まれます。

現在、部活動の地域移行という課題があります。部活動に対して教師が教えるのではなく、外部の大人ですとか親とかコーチなどに報酬を支払って教えてもらうやり方があるんですが、これをやっていくとかなりの部活動が今後減るといわれております。

また留萌市においても、野球人口がどんどん減っています。しかしプロ野球選手が来て、小中高で毎回ではないにしろ教えてくれたりとか、一緒に練習をする。そういうことをすることによって野球のコミュニティの醸成にも繋がっていく。住むことによってできるコミュニティと、実際自分たちがやることによってできるコミュニティ、職場で働くだけでその職場を中心としたコミュニティもできますが、プロ野球チームができるとコミュニティが再興されるんじゃないかという話を今させていただいております。

そして、もう一つ共通言語というものがあります。例えば、外食をしていて隣の全然知らな



い人がロータリークラブの会員だっとなれば、「ロータリーなんですね」みたいになると思うんですよ。僕たちＪＣもそうなんですけども、酒飲んでいて若い人と絡んでる時に「ＪＣなんだよね」って言ったら、「僕もＪＣなんだよね」みたいな話になります。このように誰もが知っている共通言語があるとコミュニケーションというのは非常に取りやすくなってきます。

コロナになってから特にそうなんですけどもまた人口減少もそうなんですけども、隣近所とのコミュニティ・コミュニケーションが減ってきています。もしくは人の集まる場所が減ってきているとなると、人間どうしても明るい話題よりも暗い話題のほうにフォーカスされてしまいます。新聞などを読んでいると特にそうですが、今やっていることに対しての批判批評とかもある中で、なんとなくプロ野球チームができるとなると「留萌にプロ野球チームあるよね」みたいに必ずなると思います。全然知らない人が相手でも、プロ野球という共通言語があるだけでコミュニケーションになり、地域を活性化するのは市民がビルドアップしていくのが実際一番効果的かなと思っております。行政が悪いとかそういう話ではなくて、誰もがわかる言葉、共通言語を使うだけで地域の明るい話題になっていくのかなと思っております。

我々が活動していく中で、色々な方にこの野球の話してしています。このまま草の根活動をしていきたいなと思っております。

小名木の話だけでは聞き足りないからもっと細かい話を聞きたい方がいらっしゃいましたら、いつでもお話いたします。そしてこの話に対する賛同者を増やしていきたいなと思っております。

チームを運営していく中で、各企業の寄付ですとか協賛ご協力っていうのは間違いなく必要になってきます。今この場で皆さんに「今後寄付してください」という話は今のところ誰にもしないですし、あまり好きな話ではないですが、きっと皆さんにご協力をお願いする日は来ると思いますが、まずは一緒に応援していただけないかなと思ってます。「なんか話聞くぞ」でもいいですし、会ったときに時に「進捗あるのか」でもいいです。会った時に「進捗あるのか」って聞かれた時に一番怖いのが、何もしなかった

らないんですよ。なので、誰にいつ聞かれてもいいように私は毎日何かしらの活動をしています。私たちが、日々の草の根活動をさぼらないでやっていけば、必ず実を結ぶんだなと実感しております。

何度もいいますが、チームを作るのではなく、その先にある雇用ですとかコミュニティの再興、共通言語を作ってこの場所を活性化させていく。もちろん寄附をもらって、経済の活性化、地域経済の活性化、地域外の方たちにも応援してもらいたいです。結局のところ、プロ野球チームを作るというのは、このマチを良くしたい。私にも家族がいて、このマチで仕事しています。自分の子どもに“この町が いい街だよね”と言ってもらうための一つの方法としてプロ野球チームを作るっていうのがあります。そういう風にありたいので、ぜひ皆さんも一緒に応援していただきたいなと思っております。

そこをお願いなのですが、これまでの話を一人でも多くの人に知っていただきたいのです。そして皆さんにお願いしたいのは、“こんな話を聞いたんだ”と、周りの人に言っていただけたら一番嬉しいです。そういう風にやっていけば、私が喋っている何倍のスピードで“この町にプロ野球チームを作ろうとしている人たちがいる”“この町にプロ野球チームができればこんな面白くも面白くなるかもしれない”。まだまだ細かいことをいっぱいお伝えできるんです。本当は、お金の面から施設の面から備品の面から色々できるんですけども、まずは夢のようなことを青年会議所が一生懸命やってる。そういうことをぜひ皆さんが、自分の会社の従業員ですとか、ご家族、お友達などに言っていただきたいなと思います。なんとなくでいいので応援していただきたい。皆さんに応援していただければ、私は必ずプロ野球チームを作ります。

最後になりますが、今年１年間の活動の成果発表や、前日プロフェッショナル仕事の流儀に出演した方の講演を12月に実施いたします。

ぜひとも皆さん参加していただければと思います。

# 第13回 10月15日(日) 天候/曇

## プログラム

- 本日  
「地区年次大会報告」
- 次週予定  
来賓卓話「農業の現状と今後の展望」  
中尾農園 中尾 淳様

結婚記念日  
渡 邊 裕 久

【第13回・第14回 合併号】

No.2973 第14回 10月18日

出席報告

前  
例  
会

|        |     |
|--------|-----|
| 会員総数   | 25名 |
| 出免会員   | 名   |
| 出免出席   | 名   |
| 基準会員出席 | 名   |
| 出席率    | %   |

例会/毎週水曜 12:15~13:15

国際ロータリー第2510地区年次大会地区  
大会テーマ「地域に希望を育てよう」 10月15日 小樽市市民会館  
ホストクラブ：小樽南ロータリークラブ  
コ・ホストクラブ：小樽ロータリークラブ/小樽銭函ロータリークラブ

来賓：北海道知事 鈴木 直道様  
小樽市市長 迫 俊哉様

### 《本会議/式次第》

8:00 受付開始  
9:00 点鐘 ガバナー 松浦 光紀  
開会挨拶 大会実行委員長 岡崎 芳明  
国歌斉唱  
ロータリーソング「我らの生業」斉唱  
物故会員追悼映像  
歓迎の言葉  
ホストクラブ会長 三栖 裕司  
R I 会長代理・来賓・役員紹介  
ガバナー挨拶 ガバナー 松浦 光紀  
R I 会長代理挨拶  
RI会長代理 服部 陽子  
来賓祝辞 北海道知事代理 猪口 浩司様  
小樽市長 迫 俊哉様  
9:40 R I 現況報告 RI会長代理 服部 洋子  
10:00 地区現況報告 ガバナー 松浦 光紀  
10:10 参加クラブ紹介  
11:10 財団ワークショップ「世界でよいことをしよう」  
第1地域RIファシリテーター 中谷 研一  
第1地域ポリオ撲滅コーディネーター 高柳 育行  
PHSコーディネーター 羽部 大仁  
第2地域大口基金アドバイザー 杉岡 芳樹  
12:10 財団表彰  
12:15 諸事お知らせ

12:20 ~昼食(休憩)~  
13:10 記念講演「歩きながら考える」  
漫画家・随筆家 ヤマザキマリ様  
14:40 謝辞 ガバナー 松浦 光紀  
~休 憩~  
14:50 表彰(RI会長表彰)ガバナー 松浦 光紀  
15:10 直前ガバナーへの記念品贈呈  
ガバナーエレクト挨拶 出村知佳子  
ガバナーノミニー挨拶 玉井 清治  
次期ホストクラブ会長挨拶  
札幌北RC会長 姫野 芳安  
R I 会長代理所感 服部 陽子  
お礼の言葉 ガバナー 松浦 光紀  
R I 会長代理へ記念品贈呈  
15:30 閉会の言葉  
大会副実行委員長 山村 弘一  
点鐘 ガバナー 松浦 光紀  
諸事お知らせ

表彰：永年出席100%  
30年 中出 敏彦

表彰：ロータリー財団  
マルチプル・ポールハリスフェロー  
串橋 伸幸(1)